

## 名古屋大学見学会を実施しました。

12月21日(土)、名古屋大学見学会を実施しました。2年生希望者を対象とし、オープン授業の受講と博物館の見学をしました。

午前は宇宙地球環境研究所 年代測定研究部の小田寛貴先生に『大学進学のため、高校時代に「どのように学ぶ」べきか』というテーマで、午後は大学院情報学研究科 心理・認知科学専攻の大平英樹先生(本校 S55.3 卒)に『私たちが動かす感情のしくみ』というテーマで講義をしていただきました。生徒たちは皆、講義を熱心に受けていました。それぞれが進路、勉強方法などについて改めて考える契機となる、有意義な見学会になりました。

### <生徒の感想>

「2つの講義を聞いて、今まで持っていた考えが一変されました。研究とは、1つの問題や対象に対し、分野の細かい知識、計算などを必要とするものだと思っていました。もちろん、研究にそれらは利用されるけれども、基盤となる幅広い常識があって、新しい疑問や研究対象が現れたり、様々な常識が合わさって、問題が解決されたりするという事に驚きました。また、冷静さなどの理性を司る前頭前野と運動が関係するということを知り、勉強ばかりでもいけないなと思いました。

どちらにしても、意外な繋がりがあり、とても興味深い内容でした。そして、冬休みを含め、自分の力や基盤となる知識が定着するように勉強したいと思いました。お話が聞いてよかったです。」

「名古屋大学見学会に参加してオープンキャンパスとはまた違った体験ができ、とても有意義な時間でした。特に、はじめの小田先生の年代測定のお話は面白かったし、大学は文系理系の垣根がないという自分の考えていたことと正反対のことも知ることができました。二人の先生から高校でやるべきことを聞いてとても心に残ったので、今まで以上に授業を頑張ったり、大学やその先でいかせるような経験をしたいと思いました。今回はありがとうございました。」

「講義を聞いてわかったことは自分の前頭前野が弱いということ。三日坊主なところや嫌なことを先延ばしにするところ、集中力がなく、キレやすいところなど当てはまる部分が多すぎて、焦った。自分の嫌いなところばかりだったので、前頭前野を鍛えるために、嫌いな読書も頑張ろうと思った。」

「大学で研究するのは今の勉強よりも楽しそうでしたが、今の積み重ねが大事だとわかったので頑張りたいです。」

「名古屋大学の見学会に行って、夏のオープンキャンパスでは見ていなかった他の学部や各施設をまわり、名古屋大学の雰囲気がいよいよ一層わかって、入学したいという意識を明確にもつことができた。

また、大学の先生方がくださった講義はとてもためになり、今後の勉強、特に国語や社会等の自分の行きたい学部にはそこまで関係ないと思っていた教科に対する見方、考え方が変わった。

大学でより専門的で身になる学びを手に入れるために、二人の先生方が仰られたように、今、高校までで習うことをしっかりと吸収しようと思う。」

